



コロナ禍で患者さんに 安心と信頼を届けた薬剤師

京都府北部にあるゆう薬局のVさんは7年前に病院勤務から転職した34歳の薬剤師です。「患」の字は心に串が刺さっている状態のこと。そんな患者さんの不安をやわらげる薬剤師になりたいと志望しました。

新型コロナウイルスの流行下、その志を強くする出来事がありました。生活習慣病の薬を服用する80代の桜さん(仮)。コロナ陽性と診断され、医師の処方箋でVさんの治療薬を調剤、昼休みにひとり暮らしの桜さん宅へ車で駆けつけました。

感染対策から、患者には会わず薬は自宅にポストインすることになっています。でもそれで終わりではありません。「本人確認」のため、Vさんは車の中から桜さんに電話をし、ポストから処方薬を取り出す様子を目視。この薬は蓋の開け方にコツがあるため、桜さんが開けられるかどうか確認し、続けて服用方法を電話で説明。「不安なことがあればすぐ連絡を」と伝えて、次の患者さんのもとへ向かいました。

その1カ月後、桜さんは元気な姿で来局、

開口一番「ありがとう!」と笑顔で話します。「あれから症状が落ち着きました。ひとりで不安ななか来てくださってうれしかった。本当に感謝しています!」。

新型コロナウイルスの流行という緊急事態で多くの医療従事者が奮闘する姿が報道されました。そのなかで患者さんの自宅に処方薬を届ける仕事を担ったのが保険薬局の薬剤師です。患者さんが受け取ったのは薬だけではなく、何かあれば駆けつけてくれる「信頼」と、頼りになる医療のプロが身近にいる「ゆるぎない安心」だったのです。

Vさんは話します。「新型コロナウイルスは高齢やひとり暮らしの患者さんの不安を直撃しました。そのなかで私たち薬剤師が少しでも役に立てたことがわかり、うれしかったです。Vさんは薬局内での業務のほか訪問薬剤師として患者さんの普段の様子や薬の効き目を見守っています。「不安や痛みがやわらぎ、笑顔になってほしい」。そんな思いを胸に、地域医療を支える一人として今日も患者さん一人ひとりに寄り添っているのです。」

豆知識

新型コロナと 薬剤師

薬局では、自宅療養者へのフォローだけでなく、検査キットの供給・市販薬の販売・ワクチン接種への協力、正しい情報提供などを実施しています。いつでもご相談ください。



ゆう薬局グループ本部・
宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
📍京都市左京区浄土寺下
馬場町106

もよりバス停は「錦林車庫前」